

**長浜市図書館基本計画実施プラン  
令和2年度評価書**

**長浜市立図書館**

## はじめに

長浜市立図書館は、平成27年3月策定の「長浜市図書館基本計画」に基づき具体的な取組みを計画的に進め、図書館運営の基本とするため、平成27年度から5年を期間とする実施プランを作成しました。

図書館法第7条の3の規定に基づき評価を実施するために、年度ごとの運営状況について、自己評価および図書館協議会への意見聴取をおこない、その結果を公表します。

なお、「第3章 新体制の構築に向けて」の章は、中央図書館整備のための内容であるため、令和2年度評価から除外します（評価項目53～81を省きます）。

各取組みの達成状況について、自己評価がDであった取組みについては、その原因を分析し、次年度の取組みに活かします。

## 自己評価 基準

- A：計画以上の取組みをおこない、目標を大幅に超える成果があった
- B：おおむね計画に沿って実施し、課題はあるが、目標が達成できた
- C：実施したが課題が多い
- D：ほとんど実施できなかった

## 令和 2 年度の図書館評価を終えて

図書館法第 7 条の 3 が各公立図書館に対し、年度ごとの図書館運営の状況についての評価の実施と改善の努力、その結果の公表を求めている。2008 年の法改正で盛り込まれた内容であり、長浜市図書館においても 2015（平成 27）年に「長浜市図書館基本計画」を策定して以来、基本計画実施プランを評価の基準にして、図書館職員による内部評価と図書館協議会による外部評価の結果を合わせて公表し、市民の審判にも供してきた。

この方式による評価も今回で 6 回目となり、年来の懸案であった新長浜図書館が開館し、基本計画第 1 期の最終年度ということもあるので、今回の評価結果を公表するにあたっての本文書では、第 1 期の計画に照らしてのこれまでの評価総体をも視野においた総括的な前書きとして執筆することにした。

2006 年と 2010 年の二度にわたる市町合併により、旧町に既に公立図書館があった高月、浅井、虎姫、びわ、湖北地区、未設置の木之本、余呉、西浅井地区を包括する 681 平方キロに及ぶ広大な市域を持つことになった長浜市では、市の中心部（長浜地区）が最南部に位置するという地理的特性もあり、新中央図書館の設置によっていかに福井県境にも及ぶ最北部までをカバーし、すべての市民が充実した図書館サービスを体験できる全域サービスの実態をつくり出すかを最大の課題として、方策を講じてきた。この厳しく重い課題の進捗の度合いを測るはずであった計画最終年度の図書館活動であるが、2020 年春以来の全国的なコロナ禍によって「非常事態」下の対応が先行せざるを得ない状況に終始したのは遺憾なことであった。

まず今年度の評価であるが、今回は基本計画実施プランの第 2 項が「新体制の構築に向けて」で、図書館機能充実のための施設整備、計画推進のための管理運営体制を内容としており、既に新長浜図書館が中央図書館として開館したことにより、評価の対象から除くことにした（評価項目 53～81）。その上で、外部評価について前年度の結果と比べてみると、5 項目で評価がアップし、逆に 2 項目で低下した。特に「活動発表の場の提供」が C から A に変わったのは、長浜図書館が複合施設という条件を効果的に活かした結果である。A から B に低下したのは学校図書館、園との連携についての項で、前回がいささか高きに失した感もあったようだ。「電子化資料への対応」はなお C にとどまっている。

前年度の結果の総括で新長浜図書館の「開館直後の利用の伸びが予期したほどでなかった」ことを指摘し、その要因にも言及した。これは一度きりの好機を活かしきれなかったことであり、その後の進展を期待したのだが、コロナ禍による一か月の臨時休館や利用制限という事態もあって正しく検証しきれなかったのは残念であった。「密の回避」という要請にそった臨時休館については、こんな時期だからこそその図書館サービスのありようが論議されることも必要であったろう。

新館の開設前後にわたる広範な利用者調査によって、各施設のありようへの示唆が期待

されたが、市民の各図書館との付き合いには新たな知見を得るほどの変化はなく、身近な地元の図書館の充実が望まれているようだ。中央図書館の開設で新たに図書館利用者となった新規登録者の分析、特に地域的な分布、新図書館の日常的な直接利用は難しいであろう北部地域在住者の長浜市図書館システム総体についての意識調査など、今後に向けての課題意識に立ったさらなる実態把握も必要であろう。新たなサービス拠点の探索、特に移動図書館（BM）の検討に着手したという報告もある。市域の広さと未利用者の散在を考えると BM の必要性和可能性への期待は大きい、とくに北部の場合はそんなに集中的な利用が望めるわけではなく、格差是正、市民の基本的権利の保障という高い理念に立っての、地域の特性を踏まえた、しっかりした準備の上での実施を今後の課題にして欲しい。

「地域資料と行政資料の収集」、とりわけ市の刊行物の網羅的収集とそのための定期的な送付依頼が自己評価で課題に挙げられている。公立図書館として重要な役割であるが、それが成果をあげられるには、市としての行政サービスを積極的に市民に公開する基本姿勢が前提であり、市政全体の基本方針の確立と徹底が不可欠である。

第 2 期基本計画を含めて、これからの長浜市の図書館のさらなる充実と進展を思うとき、どうして理解しがたい実態が「長浜市立図書館事業報告書」に見られる。令和 2 年 4 月 1 日現在の図書館職員数である。館長 1、副参事 3、主幹 4、主査 2、司書 1、会計年度任用職員（フルタイム 25、パート 7）が総数で 43 名とある。司書有資格者率 95.3%は評価できるが、この職員構成で「質の高い図書館サービスの継続的な提供」がどのように可能となるのか。誰がそれを担っていくのか。この構成からどんな展望が描けるのか。寒心に堪えない。これは図書館評価の問題ではなく、図書館行政への指摘であるが、第 2 期基本計画へのつなぎとなる今期の評価から見える最重要課題として提起し、結びとする。

長浜市図書館協議会

会長 塩見昇

## 令和2年度の図書館評価を受けて

このたび、平成27年3月に策定しました長浜市図書館基本計画の策定期間を終えます。この計画では、6図書館のサービスの統一と向上をめざして運営する中で、市民の多様な要求に応えられ、誰もが利用しやすくなるよう、それぞれの規模や役割を見直し、中央図書館の新設を含めたこれからの長浜市にふさわしい図書館のサービス体制を検討してきました。

またこの基本計画をサービスの道しるべとして、毎年の事業実施を図書館協議会のみならずみなさまにも評価していただき、自分たちの進捗を確認しながら具体的に事業を進めることができました。

とりわけ計画の重点目標である①均衡あるサービスの提供と②中央図書館を要とした体制への転換については、課題はあるものの一定の成果を出すことができました。

まず、合併前に図書館がなかった北部エリアに、まちづくりセンター等の協力を得てサービスポイントが作れたことは、市域のどこに住んでいても図書館サービスを受けていただける基盤作りとして大きな成果でした。しかしながらその後の利用状況から、図書館を利用したことの少ない方への広がりや、資料の鮮度を丁寧に保つことなどに課題もあり、第2期計画ではさらにきめ細かなサービスができるよう工夫が必要であると考えます。

つぎに、図書館にとって非常に大きな転換点となったのが中央図書館機能を持つ長浜図書館の新築移転です。施設の移転と同時に、休館日・開館時間の見直しや職員の勤務体制の変更、自動化の導入に伴う図書館システムの更新と、大変めまぐるしく密度の濃い時間を過ごしました。このことにより、全館での一体的なサービス体制が確立できました。ただし、塩見会長からの令和2年度図書館評価のご講評にありましたように、新館の開館という二度とない機会に恵まれておきながら、開館直後の貸出冊数や利用人数に飛躍的な伸びがなかったことは、資料費や選書、サービスの質の面からも課題が残りました。

さらには、これからというときに襲った新型コロナウイルスの感染拡大は、今も予断を許さない状況です。予期せぬ事態ではありますが、同時にあらためて図書館サービスの存在意義を見つめなおし、今できることは何か、必要とされるサービスをどのように届けるか、今も職員が一丸となって創意工夫を凝らしています。これも、基本計画を元に実施プランとして立てた目標があり、ブレない軸を頼りにできたからこそ継続できていることだと確信しております。

最後に、図書館協議会委員のみなさまにおかれましては、私どもの日々の活動やその成果に対して、客観的かつ適切なお意見や評価をいただきました。ここにあらためまして深く感謝申し上げます。

長浜市立長浜図書館  
館長 下司満里子



## I. 市民のための図書館サービス

番号	①	資料の充実	年度工程
取組み内容	1	全館の蔵書構成を把握しながら、年度ごとの購入計画を作成し、それに沿って選書をおこないます。	実施
	2	全館で季節や時事にちなんだ本を集めたピックアップコーナーを設置し、定期的に入れ替えます。	実施
	3	館内の案内を工夫する等、見やすく探しやすい棚づくりをします。	実施
今年度取組み状況	6館3室を1図書館として、必要な分野、類書を偏らないよう選書をおこないました。ピックアップコーナーの定期的な入れ替えのほか、時事に沿ったミニコーナー追加など、様々なテーマで展示をおこないました。長浜図書館の配架図を作成しました。		自己評価 B
課題	中央図書館が知の拠点となるよう、専門書の収集や一定の分野に偏らない選書が引き続き必要です。資料を除籍したあとの各館の蔵書構成を調べ、移管や新刊購入で不足を補う必要があります。情報の古い本は閉架にし、来館者が見やすく取り出しやすい書架を保つ必要があります。		

番号	②	レファレンス機能の強化	年度工程
取組み内容	4	レファレンスを広く知ってもらい、利用しやすくなるような環境を整えます。	実施
	5	レファレンスの回答事例収集数を年5%以上向上させます。	実施
	6	収集したレファレンス事例は、図書館ホームページ等で一般公開します。	実施
	7	入手困難な資料は、県内外の公共図書館・大学図書館・各種図書館との相互貸借を積極的に利用して提供します。	実施
	8	職員は外部の専門的な研修を受講し、全職員を対象におこなう内部研修も積極的にこなしています。	実施
今年度取組み状況	レファレンス事例集を図書館ホームページで公開しました(3件)。レファレンスデータベース(図書館システム)の操作マニュアルを作成し、受けたレファレンスを可視化することで登録件数を増やすことができました。一般市民向けレファレンス講座を開催しました。図書館職員向けレファレンス研修を開催(2回)しました。		自己評価 B
課題	職員のスキルをさらにあげるための図書館職員の経験年数やレベルに応じた個別研修が必要です。利用者が自ら調べ研究することができるわかりやすい資料配架やパスファインダーの整備が必要です。		

番号	③	館内事業等の充実	年度工程
取組み内容	9	市民の幅広い知的好奇心を喚起するような講座や展示を年間3回以上企画し、実施します。	実施
今年度取組み状況	「大人のための図書館の達人講座」として、一般向け講座を5回実施しました。普段なかなか知ることのできない図書館の仕組みを知ってもらい、もっと図書館を使いこなしていただくために、「図書館の本のならば方を知ろう」「やってみよう!レファレンス」「ピックアップコーナーを作ってみよう」「本の装備講座」「本の修理講座」を定員を少人数に制限して募集したところ、多くの応募があり大変好評でした。特に装備と修理の講座は、受講後に図書館ボランティアとしての活動につながりました。ながはま文化福祉プラザ1周年記念祭には、図書館・まちづくりセンターなどの職域を超えて施設全体で様々な事業をおこないました。いずれの事業も開催時には関連図書を展示するなど、常に図書館・資料と結びつくよう工夫しました。全館で資料の魅力を伝えるピックアップコーナーを数か所常設し、月1回以上展示替えを続けています。		自己評価 A
課題	市民の役に立つ図書館をめざし、さらに講座や展示を充実させることが期待されています。講座などの受講者が図書館の理解者となって、その後のボランティア活動につながるなど、実施するだけでなく「市民とともにつくる図書館」を目指す必要があります。		

番号	④	電子化資料への対応	年度工程
取組み内容	10	地域資料を電子化しデジタルアーカイブとして保存し図書館ホームページ等で公開します。	実施
	11	電子化資料の収集・貸出方法や提供方法を検討します。	検討
今年度取組み状況	10:電子化の取組みを進めるため、滋賀県立図書館主催のデジタルコレクションについての研修に参加し、実際に作製・提供するための問題点の整理をしました。 11:国立国会図書館の「視覚障害者等用データの送信を受けることができる図書館等としての承認」を受けて、サービスができる体制を整えました。		自己評価
			C
課題	デジタル化する資料の選別・方法の検討が必要です。 誰もが必要な情報にアクセスできるように、図書館情報資源についての最新情報と知識を持ち、対応できるように準備しておく必要があります。		

1-1に対する図書館協会からの意見		
評価項目	評価	意見等
①資料の充実	B	新館オープン後も全館で除籍が多い。各館で蔵書構成を考慮し、バランスの取れた資料収集に努めてほしい。
②レファレンス機能の強化	B	職員向けに研修を実施したことは評価できる。図書館ホームページでレファレンス事例集だけでなく、簡単なものでよいからパスファインダー（調べたい事柄について、資料の探し方や調べ方をわかりやすく紹介した手引き）を公表してはどうだろうか。
③館内事業等の充実	A	図書館以外の団体との共催事業や、市民参加型の講座など、複合施設の特性を活かした活動ができている。
④電子化資料への対応	C	博物館などと同等レベルで公開することは費用、設備の面からみても難しい。現図書館システムのできることからやってみるべきではないか。



2. だれもが利用できる図書館をめざします

番号	①	来館が困難な人へのサービス	年度工程
取組み内容	12	公民館図書室や学校図書館との連携によるサービスポイントの増設や移動図書館車の導入を検討します。	実施
	13	高齢や療養、産前産後などの理由により図書館に来ることのできない人が利用できる、貸出・返却の仕組みを作ります。	実施
今年度取組み状況	12:移動図書館車の導入について庁内関係課検討会議で協議しました。 13:だれでも利用できる「宅配サービス」の実施に向けて準備を進めました。		自己評価
			B
課題	宅配サービスは、申込件数が予測しにくいいため、仕組みを整えて、万全の態勢で取り組む必要があります。		

番号	②	しょうがい者へのサービス	年度工程
取組み内容	14	音訳ボランティア養成講座を主催し、講座受講後は定期的にスキルアップの機会を設けます。	実施
	15	だれもがわかりやすいピクトサインを計画し、設置します。	
	16	音訳や筆談、同行援助(視覚しょうがい者の安全確保と情報提供)ができる体制を整えます。	実施
	17	しょうがい者等に対し、年間100点以上、郵送貸出をおこないます。	実施
	18	関係機関のサービスを利用することで、視覚しょうがい者へ提供できる資料の数や質を向上させます。	実施
	19	図書館のしょうがい者サービスを周知するため、パンフレットを作成し、関係各課や団体などに配布します。	実施
今年度取組み状況	初心者向けの音訳ボランティア講座を開催し、20人が受講しました。月に1回のスキルアップ研修会は毎回20人前後の参加があります。 しょうがい者などに対し、126点の郵送貸出をしました。 国立国会図書館の「視覚障害者等用データの送信を受けることができる図書館等としての承認」を受けて、サービスができる体制を整えました。		自己評価
			B
課題	当事者の声を聞き、当事者が求める資料・情報やサービスを提供するために必要な仕組みや体制を整えることが重要です。		

番号	③	子育て世代へのサービス	年度工程
取組み内容	20	はぐはぐおはなし会・木製おもちゃの貸出し・育児書や子育て情報の提供をします。	実施
	21	子育て世代が使いやすいように設備やスペースを工夫し整えます。	実施
	22	ブックスタートボランティアの養成講座を毎年開催し、年に3人以上増やします。	実施
	23	子育て支援施設と連携した事業をおこないます。	実施
今年度取組み状況	健診会場での滞在時間短縮のために健診項目削減がはかられ、図書館から絵本の読み聞かせはできませんでしたが、保健師と連携してブックスタートパックの配布をおこないました。また、配布しているブックリストの改訂をおこなっています。 子育て支援課の行事に協力し、子育て応援フェスタ(3会場)で「えほんのひろば」を開催し、その場で本の貸出もおこないました。(実績16人・64冊)		自己評価
			B
課題	現状では健診会場で直接メッセージを伝える活動ができない状況が続くため、ブックスタートのメッセージを丁寧に伝える工夫が必要です。 健診会場での活動ができないブックスタートボランティアの継続意欲を維持できる取組みが必要です。		

番号	④	高齢者へのサービス	年度工程
取組み内容	24	高齢者向けの資料を充実させるために、大活字本を年に50冊以上増やします。	実施
	25	社会参加やボランティア等、新たな活動のきっかけとなるような講座を年1回以上開催します。	実施
	26	高齢者施設における貸出の仕組みを作り、貸出しを促進するために周知します。	実施
今年度取組み状況	24:大活字本を48冊購入しました。 25:取組み内容No.9で、ボランティア活動につながる講座を2回(同内容を各2回で実質4回)開催しました。 26:高齢者施設への貸出は、団体貸出の仕組みを利用しています。		自己評価 A
課題	個人や施設への資料の貸出のみならず、人生を豊かにするための情報を得る機会の提供や、居場所としての役割も含め、超高齢社会における図書館サービスについて職員が理解を深め、実践につなげることが必要です。		

番号	⑤	外国語を母語とする人へのサービス	年度工程
取組み内容	27	外国語資料の収集・提供を進めます。特にポルトガル語・スペイン語資料をそれぞれ年に10冊以上収集します。	実施
今年度取組み状況	ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語、ベトナム語の資料、計91冊を収集し、提供しました。外国語資料の一覧表を作成し、ホームページに掲載予定です。		自己評価 A
課題	利用が増えてきた国籍の言語の利用案内の作成や多言語のおはなし会など、図書館職員だけでは対応が難しいサービスをどう提供するか、関連機関と連携した取組みが必要です。		

1-2に対する図書館協議会からの意見		
評価項目	評価	意見等
①来館が困難な人へのサービス	B	移動図書館サービスの実施については、さらに検討をすすめてほしい。図書館の様々な使い方がわかる案内やマニュアルを作成して、図書館ホームページで公開してはどうか。
②しょうがい者へのサービス	A	資料を必要とする人に必要なものを揃えることが基本である。資料提供は相互貸借ではなく、所蔵資料で提供できることが望ましい。市で独自にサピエ図書館に加入するなど、今後の課題としてほしい。
③子育て世代へのサービス	B	昨年度もっとも新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた来館者へのサービスの一つであるが、サービスがうまく定着している感がある。来館を控えておられる保護者へどう届けていくか、引き続き考えてほしい。
④高齢者へのサービス	A	これまでの取組みも、今後の展望なども、よく考えられている。増加する高齢者に対するサービスをさらに充実させてほしい。
⑤外国語を母語とする人へのサービス	A	外国語資料を一覧にして公表(ホームページなど)することは、資料・情報を必要とする人にとって有効なサービスである。しっかりPRもしてほしい。

3. 子どもが本と親しめる図書館をめざします。

番号	①	子どもの読書活動の推進	年度工程
取組み内容	28	「長浜市子ども読書活動推進計画」(第2次)に基づく「けやきっ子プロジェクト」を関係課の中心となって進め、第3次計画へつなげます。	実施
今年度取組み状況		第3次計画の2年めとなり、昨年度に引き続いて関係課と連携しながら事業に取り組むことができました。 新型コロナウイルスへの対応で一時的に休止した事業もありましたが、規模を縮小したり開催方法を工夫したりして、継続して事業をおこないました。	自己評価 A
課題		制限があるなかでどのように子どもの読書推進を進めるか知恵を絞り、家庭・地域・学校などを巻き込み、市全体で子どもの読書活動の理解をさらに深め、気運を高めていく必要があります。	

番号	②	学校図書館との連携	年度工程
取組み内容	29	学校図書館の蔵書管理や書架の配置について学校及び学校司書の相談に応じます。	実施
	30	学校司書との連絡会を通じて、学校図書館の運営への支援や資料・情報の提供をおこないます。	実施
	31	学校連携が可能となる拡張性を持った図書館コンピュータシステムを採用し、体制を整備しながら学校図書館への支援を進めます。	実施
	32	図書館と学校間の資料配送システムのネットワーク化について検討します	実施
	33	図書館見学を積極的に受け入れるためメニューを作成し、学校図書館連絡会を通じて情報提供をおこないます。	実施
今年度取組み状況		学校図書館と図書館の担当者が一堂に会して情報交換することはできませんでしたが、個別に相談に乗ったり、県の「学校図書館を活用した楽しむ読書推進事業」に協力したりしました。 学校からの図書館見学も積極的に受け入れました。特に新しい長浜図書館へは旧長浜地区外の学校からの見学もあり、学校の希望に応じたメニューで図書館を紹介することができました。	自己評価 B
課題		小中学校、そして市内の高校の担当者と途切れない関係づくりをし、連携を深める工夫が必要です。	

番号	③	園との連携	年度工程
取組み内容	34	園の絵本の活用が進むよう、書架の配置や絵本の並べ方等の助言をおこないます。	実施
	35	市内全園に、来館による絵本の貸出しやおはなし会の受入れを毎年お知らせし、利用を促します。	実施
今年度取組み状況		園向け団体貸出の制度を使った申し込みがありました。教育センターの自己啓発研修の機会を使って読み聞かせ研修をおこない、あわせて園向け団体貸出の制度と「えほんのひろば」のお知らせをしました。	自己評価 B
課題		園向け団体貸出の制度などのお知らせを園に向けておこない、さらに活用してもらえるように周知する必要があります。	

番号	④	子どもと本をつなぐ大人への支援	年度工程
取組み内容	36	子どもの読書への理解と関心を深めるため、保護者やボランティアを対象に、年1回以上講演会等をおこないます。	実施
	37	園や学校で図書整理などをおこなうボランティアのスキルアップにつながる講座を開催します。	実施
	38	担当課と協力し、子どもの読書への理解と関心を深めるための教師・保育者向けの研修会等を年に1回以上開催します。	実施
	39	教師や保育者の教育活動や教材研究に役立つ資料を計画的に購入し、情報を提供します。	実施
今年度取組み状況	<p>社会福祉協議会と共催で「読み聞かせボランティア活動を楽しむための講座」を3回開催し、のべ50人の受講がありました。</p> <p>教育センターと協力し、教師や保育者向けの「読み聞かせ研修」を実施し、読み聞かせの意義や季節に合った絵本の紹介をしました。</p> <p>教育センターの発行物で、教育活動に役立つ本を紹介しました。</p>		自己評価 A
課題	ニーズに合った講座内容で読書活動への理解を深めたり活動意欲を高めたりする必要があります。		

1-3に対する図書館協議会からの意見		
評価項目	評価	意見等
①子どもの読書活動の推進	A	これまでの関係づくりから、関係課と一緒にひとつの事業を実施するなどよく連携がとれている。
②学校図書館との連携	B	ニーズに沿って学校図書館を支援されている。今後はさらに連携が深められるよう、学校司書の配置に関する事など関係課に働きかけてほしい。
③園との連携	B	園が利用できるサービス内容を園長会でお知らせするなど、引き続き周知に努めてほしい。
④子どもと本をつなぐ大人への支援	A	人数制限付きでしか講座が開催できないなか、多くの学びがあった。次のスキルアップにつながる環境も作ってほしい。教育活動に役立つ本の購入は、実情に即したものの購入を続けられたい。

4. まちの魅力を発信し、地域の文化的な拠点となる図書館をめざします

番号	①	地域資料や行政資料の収集	年度工程
取組み内容	40	行政資料の収集を市行政職員に周知し、ファイリングやデータの整理を進めます。	実施
	41	地域資料を市民に呼びかけ収集するとともに、データの整理を進めます。	実施
	42	地域資料の活用や継承する方法について、専門家や関係機関とともに検討する体制を整えます。	実施
今年度取組み状況	行政資料の内容によって追加を依頼するなど配分調整したほか、滋賀夕刊など、メディアで紹介された地域資料を積極的に収集しました。		自己評価 B
課題	長浜市が発行する行政資料を網羅的に収集できるよう、庁内に定期的に送付依頼する必要があります。		

番号	②	市の情報の提供	年度工程
取組み内容	43	地域活動や子育て、暮らしに役立つ情報を収集・整理し、活用できる体制を整えます。	実施
今年度取組み状況	長浜図書館の2階「テーマの本棚」に関連情報のチラシなどを設置して、興味関心を広げる機会を提供しました。市内で開催されるイベントなどのチラシを可能な限り収集・整理し、活用できるよう保存しています。		自己評価 B
課題	市の情報の拠点としての役割を意識し、収集・整理・保存・活用の仕組みと体制をさらに整える必要があります。		

番号	③	博物館や資料館との連携	年度工程
取組み内容	44	地域の歴史や民俗に関する専門的なレファレンスに対応するため、博物館や資料館との連携協力体制を整備します。	実施
	45	博物館との連携を進めるため、共催行事や展示の開催を年に1回以上おこないます。	実施
	46	歴史資料を博物館等と連携して保存・活用・提供できる体制を整備します。	実施
今年度取組み状況	長浜城歴史博物館との共催展示を、長浜図書館で3回おこないました。市内6図書館の関連資料も併せて展示・貸出しました。博物館が用意した大きなカラーパネルを使うなど、図書館だけではできない展示の内容は好評でした。「図書館で展示を見た市民が関心をもって博物館に行く」こともありました。博物館や歴史遺産課の職員とやり取りを重ねるなかで、お互いにレファレンスの情報を共有する機会を持つことができました。		自己評価 A
課題	旧長浜図書館で保存していた写真や古いポスターなどの資料の活用について、博物館や関係課と連携して進める必要があります。		

番号	④	活動発表の場の提供	年度工程
取組み内容	47	施設を利用しての作品展示や活動の発表の場としての利用を促進するため、市広報や図書館ホームページで参加・応募を呼びかけます。また、展示や発表の成果を図書館ホームページ等で公開します。	実施
今年度取組み状況	市民の活動だけでなく、市の関連部署と共催し、啓発などの場としても利用しました。長浜図書館がさざなみタウンにあることで、まちづくりセンターで活動する市民の作品を紹介・発表する機会が多くありました。予定や成果はさざなみタウンのホームページにも掲載され、より多くの市民を紹介することができました。		自己評価 B
課題	多彩な展示ができるように、さらにまちづくりセンターや市の関連部署などとの連携を深める必要があります。		

1-4に対する図書館協議会からの意見		
評価項目	評価	意見等
①地域資料や行政資料の収集	B	地域資料の受け入れが計画的に進められている。行政資料を網羅的に収集する仕組みをつくるために、図書館が収集・公開することの意義・必要性を全庁的に呼びかけてほしい。
②市の情報の提供	B	チラシなどの活用は膨大な数と手間だと思われるが、地域資料として継続的に蓄積することは重要なことなので続けてほしい。
③博物館や資料館との連携	A	さらなる連携と協力体制を期待する。資料はデジタルデータにして公表するなど、SNSをもっと活用するとよいのではないか。
④活動発表の場の提供	A	複合施設の利点を効果的に利用できている。図書館の取組みは市民に親しまれ徐々に利用数も増えているので、さらに活用されるよう取組みを進めてほしい。

5. 市民とともにつくる図書館をめざします

番号	①	市民との協働の推進	年度工程
取組み内容	48	市民の図書館運営への参画を促進するため、市民との協働による事業を年1回以上開催します。	実施
今年度取組み状況	まちづくりセンターで活動している団体の作品展示をおこなったり、本の寄贈をきっかけに県釣り振興会とお魚イベントを開催したり、長浜図書館が複合施設の中に入ったことで、これまでになかった市民団体との連携を積極的におこないました。また、図書館の講座の参加者が自ら展示コーナーを作成するという発展形もおこなうことができました。		自己評価 B
課題	事業に参加したり、展示に図書館蔵書を添えたりという形式も多いので、企画から一緒に創り上げていけるような事業に取り組む必要があります。		

番号	②	ボランティア活動の推進	年度工程
取組み内容	49	図書館や読書に関するボランティアの交流会を年1回以上開き、情報交換できる場を設け、市民活動を広げます。	実施
	50	図書館を拠点として活動するボランティアに、通信を年6回程度発行し、ボランティアが図書館で活動するために必要な情報を提供します。	実施
今年度取組み状況	年度の上半期は、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、活動を自粛していただいていたが、7月に「活動のお誘い」を通信の発送でおこないました。ご自宅でする作業を用意して、図書館へ行かなくても活動できる体制を作りました。交流会も開催できず、活動人数は例年より減りましたが、来年度もボランティア継続をお願いしたところ、予想以上の応募があります。今後の活動につながる講座（大人のための達人講座）は定員を上回る人数の参加があり、その後も継続的に活動いただいています。昨年引き続き、社会福祉協議会と共催で読み聞かせボランティア向けの講座も開催しました。		自己評価 A
課題	ボランティアの方々が意欲的、かつ自主的に活動を継続できるような体制や仕組みを整え、支援することが必要です。		

番号	③	図書館協議会等の活用	年度工程
取組み内容	51	図書館のサービスを検証し、意見を求めてサービスの向上につなげるため、図書館協議会を年2回以上開催します。	実施
	52	講演会や講座の開催時には、毎回アンケートを実施し、市民の声を企画に生かします。	実施
今年度取組み状況	51:書面開催も含め、図書館協議会を4回開催し、図書館サービスへの意見を聴取しました。52:講座などの開催数が少なかったものの、必要に応じてアンケートを実施しました。		自己評価 A
課題	来館しない・できない市民の声をどう集めて活かすか検討が必要です。		

1-5に対する図書館協議会からの意見		
評価項目	評価	意見等
①市民との協働の推進	A	複合施設の特性を活かして、新しい取組みができています。
②ボランティア活動の推進	A	長浜市のようにたくさんのボランティアが活動している図書館は、実は多くない。今後もこの取組みを大切にしてほしい。
③図書館協議会等の活用	A	活用され、よく機能している。

## I. 数値目標と評価方法

番号	数値目標と評価方法		年度工程
取組み内容	82	年度ごとの具体的な取組み目標を設定し、達成状況について項目ごとの自己評価をおこないません。	実施
	83	目標の達成状況を検証するため、利用者アンケートや市民懇談会等をおこないません。	実施
	84	年度ごとに、図書館協議会から意見を聴取します。	実施
	85	年度ごとの実績と併せ、自己評価および図書館協議会からの意見を事業年報で公表します。	実施
今年度 取組み状況	令和元年度の自己評価をおこない、それを元に図書館協議会から意見を聴取し外部評価とし、それらをまとめて「長浜市図書館基本計画実施プラン令和元年度評価書」として公表しました。また、事業実績を「長浜市立図書館事業報告書令和元年度版」としてとりまとめ、公表しました。		自己評価 B
課題	第2期計画策定まで現計画を延長していることもあり、工程や評価が実情に合わなくなってきています。第2期計画では、年度ごとの取組みをわかりやすくする必要があります。		

3に対する図書館協議会からの意見		
評価項目	評価	意見等
数値目標と評価方法	B	新型コロナウイルスの影響で致し方ないところもあるが、新館開館による目標達成が難しくなった。様々な取組みを進めても思うような成果が出なかったなかで、よく図書館活動を継続されている。



## 長浜市図書館基本計画に掲げる数値目標

サービス指標			実績		目標
			平成25年度	令和2年度	平成31年度
①	実利用者率(市民)	%	15.8	12.8	25.0
②	個人貸出密度	冊	8.6	7.0	10.8
③	来館者数 (長浜図書館・中央図書館)	人	138,633	249,733	350,000
④	個人貸出冊数(全館)	冊	1,051,471	811,514	1,300,000
⑤	予約・リクエスト件数(全館)	件	144,355	165,133	165,000
⑥	レファレンス件数(全館)	件	270	109	350
⑦	市民による展示・発表件数(全館) (おはなし会を含む)	件	78	35	100
⑧	ボランティア活動者のべ人数(全館)	人	1,021	285	1,200

① 実利用者率 1年間に図書館の貸出を利用した市民の割合

② 貸出密度 1年間の市民1人あたりの貸出冊数